

一般質問

■プラスチックごみの分別変更について  
市民への周知と市民の負担について見解を伺う！

質

硬質プラスチックごみが埋立ごみから燃えるごみに変更となった。埋立ごみの日にプラスチックごみが回収されず置いたまとなつていているのを見かけるが、どのように周知をしたのか。

また、指定ごみ袋に入りきらない大きなプラスチックごみはなかりサイクルセンターに直接持込みとなるが、高齢者には大変困難であるし、遠方の市民はガソリン代などの負担が増える。これまでどおり業者による回収が望ましいと思うが市長の見解を伺う。

答

町会連合会への説明や広報、家庭ごみの分け方、出し方の冊子、収集カレンダーでの周知を図っており、町会長の要請に応じ、説明を行っている。

ごみの量に応じて費用を負担することで、ごみ処理費の公平を担保しているため、特殊な事情によるごみを市で収集することはその費用を広く市民で負担することとなる。自ら持ち込むことが困難な場合は民間の一般廃棄物収集業者へ依頼するようお願いしているところであり、引き続き丁寧に周知していく。



徳田 正則 議員  
(新国会)



150cm 以上は、ななか中央埋立場へ自己搬入

一般質問

■子ども教育・子育ての課題、不登校児童・生徒への支援について

小学生の不登校支援対策の強化を！



木戸 奈諸美 議員  
(あすなろ)



学校の教室

質

近年の不登校児童・生徒数と傾向、令和4年度の支援や取組みについて伺う。

また、小学生の不登校支援という点に重点を置き、教育支援センターわかたけの機能強化が必要と考えるが見解を伺う。

答

令和4年度において、本市小・中学校における不登校児童・生徒数は千人あたり32・8人であり、小・中学校とも増加傾向である。児童・生徒本人や保護者とスクールカウンセラーとの面談の場を設けるなど、教育相談体制を整備するほか、教育支援センターわかたけと連携し、児童・生徒の社会的自立に向けて支援を行っている。

小学校の不登校支援にかかる「わかたけ」の機能強化については、不登校児童の低年齢化、長期化が課題となっており、小学生の受入れも、今後検討していきたい。

一般質問

■福祉車両について  
必要な障がい者に配慮を！

質

福祉車両が利用できなくて困っている方は決して少なくない。その原因として少なくとも3点考えられる。貸出用の車両がない。今の福祉タクシーの利用料金助成では、1か月に1回の通院ができない。自家用車を福祉車両に改造しようにも費用等経済的負担が大きい。そこで、以下3点について、支援の現状と今後の展望を伺う。

- ①福祉車両の貸出
- ②福祉タクシーを利用した場合の利用料金の助成
- ③福祉車両を購入する、あるいは福祉車両に改造する場面の助成

答

福祉車両の貸出について、各タクシー会社で福祉タクシーサービスを提供していることから、現在のところ貸出を行う予定はない。

福祉・一般タクシーの助成について、1冊40枚で1万2千円分のタクシー助成券を交付対象者となる障がい者の方へ交付を行っている。また、昨今原油価格の高騰によりタクシーの利用料金も値上げ傾向であることを踏まえ、助成額についても検討していかなければならないと考える。

福祉車両の助成について、購入や改造内容によって助成額が定められており、費用の一部を助成する制度がある。この助成制度を活用し、介助者の負担軽減と障がい者の社会参加の促進を図っていきたい。



山添 和良 議員  
(無党派)

